



所在地／大阪府吹田市
 学生数／約30000人
 学部／法、文、経済、商、社会、政策創造、外国語、人間健康、総合情報、社会安全、システム理工、環境都市工、化学生命工
 大学院／法学、文学、経済学、商学、社会学、総合情報学、理工学、外国語教育学、
 心理学、社会安全、東アジア文化、ガバナンス、人間健康
 ▶THE世界大学ランキング2021／1001+位、同アジア版2020／401+位、同日本版2020／72位

withコロナの国際戦略・取り組み

	国際戦略	コロナ禍での取り組み
教育	「国際化戦略2014-2023」に基づき、異文化イメージ教育を展開。外国語に囲まれる空間や、ステップアップしながら多様な異文化体験プログラムに参加できるしるしを構築 ▶「英語で学ぶ」ことができるように、留学生と共に国際感覚を養う科目を英語で開講 ▶オンライン型国際協働学習「COIL」を導入 など	オンラインを活用した国際交流を積極的に推進 ▶短期語学研修の代替としてオンライン語学研修を実施 ▶オンライン留学に参加する学生に最大8万円を補助 ▶海外大学が提供するオンライン学習プログラムを学生に紹介。海外大学とは相互に学習プログラムを提供し合うなど、学習プログラムを介したチャネル開発を推進 など
研究	研究者個人の国際交流の促進。そのための支援の充実 ▶協定大学と研究者を派遣し合う「交換研究者」制度 ▶中国(上海、北京)、台湾(高雄)、タイ(バンコク)、ベルギー(ルーヴェン)にある海外サテライトを通じた、共同研究につながる情報の発掘 など	国際共同研究を推進するための支援の充実 ▶国際共同研究の推進を担当するURA (University Research Administrator) を配置 (2019年度から) ▶招へい研究者の計画変更に伴う特別予算措置を実施 など
産学連携・社会連携	大学として、国際社会の一員として求められる社会貢献の実践 ▶学長の下に「KANDAI for SDGs推進プロジェクト」を設置し、SDGsをテーマにしたSDや教育プログラムを推進 ▶文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」SUCCESS-Osaka ^{*2} では、留学生の就活や、就職後のキャリア形成のサポートを提供 など	大阪や関西への地域貢献を強化・深化 ▶「国際協力セミナー：SDGsの学び方」をオンラインで開催 ▶SUCCESS-Osakaでは、留学生対象のインターンシップフェアをオンラインで開催。日本企業と留学生が大阪・関西のSDGs課題解決に取り組むプロジェクトを実施 (SUCCESS-Osaka Future Design) など
広報	海外への情報発信を強化 ▶海外向けプレスリリースサイト「e-bulletin」を2018年12月に開設 ▶COILを世界中の大学に広めることを目的とした組織として、「グローバル教育イノベーション推進機構」を設置し、COILに関する情報やノウハウを国内外の大学に提供	各種イベントをオンラインで開催 ▶留学ガイダンスをオンラインで実施 ▶留学説明会をオンラインで実施 (全世界、中国対象、台湾対象) ▶海外から入国できない学生に対する各種情報発信 ▶アメリカ教育協議会 (ACE) と連携して教員向けのワークショップを開催するなど、COILに関する情報提供を強化

*2 関西大学、大阪大学、大阪府立大学、大阪府立大学の4大学が連携して運営 (https://www.kansai-u.ac.jp/Kokusai/SUCCESS-Osaka/)

自前主義の国際化からの脱却 大学間でのリソースの共有を推進



関西大学

オンラインを活用し、国内でできるグローバル教育にいち早く取り組んできた関西大学。その戦略と、オンライン活用のメリットについて聞く。



副学長 国際部長 文学部教授 藤田高夫

ふじたたかお ●1991年京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。1997年関西大学着任。1998年助教授、2005年教授。文学部長、東アジア文化研究科長、学校法人関西大学理事などを経て2020年より現職。専門は、東洋史、東アジア文化交渉学。

留学の呼び水としてのオンライン国際交流

コロナ禍で留学に行けない状況が続く中、海外大学とのオンライン協働学習*1(COIL)が注目を集めています。本学は、2014年から全国の大学に先駆けて取り組んでいます。COILは、ニューヨーク州立

大学が2004年に開発した学習手法で、ICTを活用した異国間の学生による協働学習です。すでに開設している科目に、この学習法を取り入れて実施するため、まずは学習内容に関連性のある互いの科目をマッチングし、科目担当者共同で授業設計を行ってから学習を始めます。もともとは、費用の問題などで留学に行きたくても行けない学生に、国際交流の機会を提供する目的で考案されたものです。しかし

これには、一人で海外に行く自信のない学生を行く気にさせる効果もあります。というのも、国内にいながら海外の学生と交流を深めるうちに学生は、自分のコミュニケーション能力に自信を付けていくからです。全て外国語で開かれて生活しなければならぬ留学に、おまけついでに留学は少なからずいます。本学は、その心理的ハードルを下げる手段としてオンラインによる国際交流を取り入れています。その意味では、本学にとってオンラインの活用は、留学に行けない期間の「代替」手段ではなく、留学に向けた「準備」を促すものだと言えるでしょう。

自前にこだわらずあるものを活用する

こうしたオンライン活用を推進してきた背景には、本学が国際化戦略の中で進める異文化イマージョン教育があります。イマージョンは「浸す」という意味。日常的に外国語が周囲から聞こえてきたり、異文化に接したりできる環境を学内につくり、その中に学生を浸すことで、異文化適応能力を育成したいと考えています。そうした環境を全て「自前」でつくり上げるには、膨大なコスト

がかかります。それに加え、自分たちの世界に閉じこもった閉じた国際化を進めることにもなりかねません。そこで本学では、すでにあるものを「共同」利用する国際化を重視しています。開設科目の共同実施で国際交流を実現するCOILの拡大は、世界の日常とつながる。開かれた国際化を推進することになると考えています。COILの普及も自前主義で行っていません。COILを実施するには、自分が教えている科目と相性のよい「最適なパートナー」を、世界中から探し出す必要があります。それを教員個人が行うのは至難の業。専門家の助けや、マッチングのためのシステムが不可欠です。そこで、大学が共同で利用できる基盤やサポート体制の整備にも取り組んでいます。基盤は共同で利用し、授業は各大学が工夫するやり方が、一番効率的なのではないでしょうか。

私はコロナ禍により、人的国際交流において「現地ではできないこと」と、「国内でもできること」の仕分けが進んだと考えています。今後は、国際交流のやり方が大きく変わるはずですが、その変化を追い風にするためにも、自前ではなく共同の考えを大切にして、国際化を進めていきます。

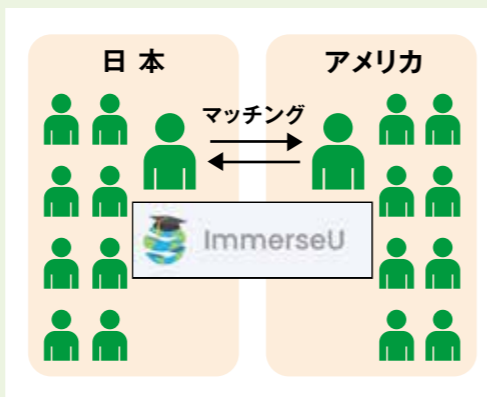
*1 Collaborative Online International Learning

注目! プラットフォームの共同利用でCOIL導入の負担を軽減

COILをいち早く導入し、その普及にも努めている関西大学が2019年3月に立ち上げたのが、日米間のCOILパートナーマッチングサイト「ImmerseU(イマースユー)」*3だ。COIL実施を検討する教員が、大学の規模、科目の特性などに見合うパートナーを探ることができる。加えて授業デザインなどに関する研修も対面／オンラインで提供しており、新たに関心を持った教員が取り組みやすい環境を整えている。

また、COILを通じた大学間連携を進める「JPN-COIL協議会」も組織した。各大学の関心はコロナ禍によって輪をかけて高まっており、夏以降に会員が急増。2020年12月4日現在で正会員は27大学に上る。語学力やコンピテンシーなど、COIL教育の成果を測定するツールの開発などに取り組んでいる。

COILパートナーマッチングサイト



*3 文部科学省「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」(2018年度)での取り組み